



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	福島市立福島第三中学校 全校生徒 458名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックを通してスポーツの意義や価値などについての理解・関心を高め、人々が互いに人権を尊重し合い、ともに力を合わせて生活する共生社会の実現を目指そうとする態度を育成する。
5 取組内容	① パラリンピックについて資料を集め、パラリンピックの歴史やその意義、様々な競技種目や特徴について理解する調べ学習を行う。 ② 全校集会において、「I'm possible」の資料を提示し、パラリンピックについての理解を深める。 

	<p>③ 「オリパラ学習会」として、東邦銀行陸上部選手 佐藤智美さん、同コーチ 吉田真希子さんを講師として招き、講演会を行い、国際的なパラ陸上に出場し、活躍するに至った経緯やそれまでの苦労を聞くことで、障がいに対する理解を深め、パラリンピックに対する興味・関心を高める。</p>  <p>④ 佐藤智美さん、吉田真希子さんに礼状を書く。 ⑤ パラリンピックについて学習したことをまとめる。</p>
6 主な成果	<p>○ オリンピック・パラリンピックについての調べ学習や講演会の話を通して、特にパラリンピックについて理解を深め興味・関心を持った生徒が増えた。さらに、2020年のパラリンピックにおいて、ボランティアなどで関わりを持ちたいと語る生徒も見受けられた。</p> <p>○ 障がいを持ちながらも目標を持って努力し、日本記録を塗り替えている佐藤智美さんの生き方に感動し、自らの生き方について振り返り、前向きな気持ちで取り組んでいこうとする感想が多く見られた。</p> <p>○ 吉田コーチが佐藤選手に対して障がい者だから特別扱いするのではない接し方を聞き、同じ普通の人間として共に助け合おうとする共生意識をもった生徒が増えた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○ 本校が信夫ヶ丘陸上競技場と隣接していることから、実際に佐藤選手とトラックで100mを走りパラリンピック選手であり、日本記録保持者の凄さを体験する計画であったが、シーズンオフで怪我等の心配もあり見送った。佐藤選手が実際にパラ陸上で走っている映像を見ることで代替した。</p>
8主な課題等	<p>○ 前述の通り実際に競技を体験する場面があれば、さらに効果的だったと思われるため、実施時期等を検討する必要がある。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ 他競技のパラリンピック代表候補選手の話聞く機会があれば、さらに生徒の興味・関心が高まっていくと考えられる。</p>